

'82年度第3期 テーマ 「冬をいかにおかせ撃つか」

今週は 飯場の機能 と我々の立場

夜間学校ニュース

|| 喜望王の家・集会室・午後七時より

飯場 飯場と

流れゆく俺ら……

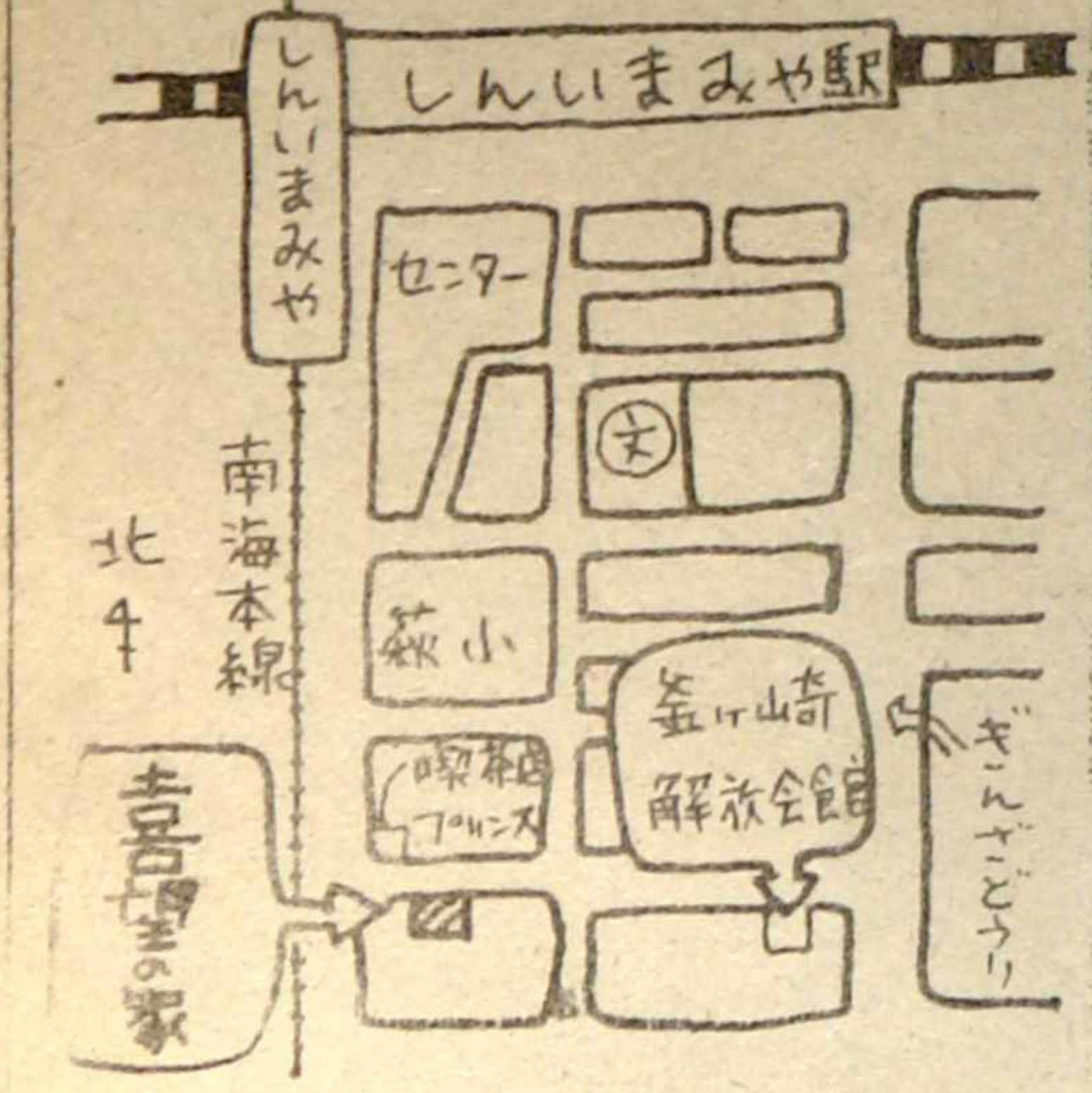
仕事がなくって飯場がはせる時代が、現金の好きな人、なんとか直行の口ばかり追いかける人、そして、飯場専門の人。だけど、仕事が少ないと、好ききらいに関係なく飯場へいかざるをえなくなる。最近、センターだけを見ると、なんとなく、現金が少なく、飯場求人の方が多いような気がする。

「これからは飯場主流の時代になるのではないかと、そんな気がしてならない。これから、世の中そんなに景気がよくなるということはなく、当然、釜に来る仕事も減る、一ことが予想される。

人夫出しは、人工で稼げなくなる。飯場に人をためて、輪番で仕事に行かせ、経費をうかせてもらうけようとするだろう。また、現場も、労務管理がきびしくなり、つねに一定した人間を手配するようになり、人夫出しに要するようになるだろう。飯場の持つ意味が、今、大きくかわろうとしているように思える。

今晚、皆で、飯場の今と昔の比較、そしてこれから予想を考えこみよう。その移り変りのなかで、我々は、どのようなものとして取り扱われて来、これからどう取り扱われるのか考えてみよう。そして、我々は何をなすべきかも。

発行
西成区萩ノ茶屋2-8-18
土居喜望王の家発行
てんわ 647-13946
〔木下日夜7じ29じ〕



がきびしくなり、つねに一定した人間を手配するようになり、人夫出しに要するようになるだろう。飯場の持つ意味が、今、大きくかわろうとしているように思える。

今晚、皆で、飯場の今と昔の比較、そしてこれから予想を考えこみよう。その移り変りのなかで、我々は、どのようなものとして取り扱われて来、これからどう取り扱われるのか考えてみよう。そして、我々は何をなすべきかも。

今後の仕事のみにあじ

自分がちで切り開く



のかが他に任せるとのか

まず、過去20年の全盛
何崎での仕事の量と日本
経済との関係を考えた。

①昭和44ないし45年まで仕事

はふえつづけていた。その
背景には「高度経済
成長」(その一つのピーク
が「万博」)とベトナム戦

争があった。

②昭和48年の石油ショック

の影 響で仕事はヘリ、
昭和50年には、これまで
最低になった。

③石油ショックによる不況を

なんとかしのぐとして、政府

はハム共投資額をふやし

はじめた。その結果、全盛

期全盛の仕事も徐々にふ

え、昭和54年には、石油

ショック以前の水準にま

で回復した。このころ、

全盛期の仕事全体にし

める建設業の割合が

目撃高になった。

④しかし、このハム共投資額

も借金(赤字国債)に

大きく頼っていたため、

国の財政が悪化し、昭

和54年ごろからは、ハム

共事業業予算の伸び

はゼロ・パーセントにお

さくらゆることになった。

このころから、「行政改革」

が、さけはれたし、「福祉モ

チリフめられた。その

結果、全盛期の仕事も

ヘリだし、今年のように

仕事が少ない状態に

なった。

「仕事があるうかがな

らうが、ひとりの力が人

であるという自覚をもつ

はまる。そのよ、冬、南

の臨海は労働者の人格を

侮辱しているのではな

住居を安定させることも

「自分なら、どれくら

えは住まえていけるか

ギリギリのところまで、

ええおく必要がある。」

「ケタオキでもなんでも

たう、そんなことにま

なり。自分はとし、ケ

に行けるケがしたけ

「このころを月のム

火害は人火だと思

治水などの生活を

備がなまざりに

二水にじゃぶぶん

けば、全盛にも

くるのではな

「これまで、仕事はど

まわってくるとい

まわってきた。これまで、仕事はど